

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、入居者一人ひとりが地域の方々と係わりながら、その方の生活リズムを大切にしたい穏やかな暮らしの中で、「幸せだ～」と思える施設を目指しています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内（台所にも）に運営理念を掲示し、日々、目に出来るようになっています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	日頃の面会時や、地元の方々にも参加頂いている「運営推進会議」の中等でも話題にし、分かっている頂いています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃から、近隣の商店に入居者同伴で食材の購入に出掛けており、店員さんや地元の方々とも声かけあっています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「運営推進会議」や夏祭り、秋の芋煮会、又、1月恒例の「どんど焼き」への参加等にて、地域の方々とは係わらせて頂いています。	○ これからも積極的に係わり、地域との信頼関係につなげていきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	たまに、地元の方が地域包括からの声掛けにて来所され、在宅介護での相談にみえることあり。 (よく話を聴いた上で、認知症に関するアドバイス等行なっています)	○	今後も、民生委員や、同敷地内の地域包括支援センター職員とのつながりの中、係わって行きたいと思っています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価頂いたことを真摯に受け止め、定例会の場等で話し合い、改善に向け取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、行政、地域包括支援センター職員、市議会議員、民生委員、駐在さん等々の参加ある中、毎回、遠慮のない活発なご意見、ご指摘等頂き、サービス向上に活かしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは、「運営推進会議」や、那須塩原市の「地域密着型サービス事業者連絡協議会」等に於いても顔を合わせ、ホームの考え方の理解も頂けておりますので、日頃より相談事やアドバイス等頂いております。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前、「あすてらす」ご利用の入居者がおられましたので、職員の理解ある。と、共に、今後も、必要であれば支援の方向でいます。又、法人内の「学習会」でも取り上げており、職員皆で理解に努めています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内に「虐待防止委員会」を設置し、毎月の定例会の中で毎回話し合ったり、虐待防止に関する研修にも積極的に参加し、全員での周知出来ています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所の際に、重要事項の説明は勿論のこと、不安や質問等にも答えるなど、時間を掛け納得して頂ける様心掛けています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者との日常のなにげない会話の中からや、家族やボランティア参加のふれあう行事の場などを通じて、思いを引き出すよう心掛けています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族様には、毎月、支払いがたらホームに顔を出して頂いており、その際に、日頃の様子や、新しい職員の紹介等行なっています。、又、施設対応での通院時には、その日の内に状況報告し、御家族に安心して頂ける様努めています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や、交替での家族参加となっている「運営推進会議」内等に於いて、遠慮のない本音を聞く中、参考にさせて頂いております。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月実施中の、定例会やサービス担当者会議の場などにて、介護現場の確認や意見交換行なっています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>毎月の定例会の中で、「翌月の行事予定」の議題があり、外出（初詣、お花見、ドライブ・・・）や行事（節句、七夕、夏祭り、芋煮会、クリスマス会・・・）等ある際は、十分な目配りを考慮し、普段より多くのシフトにて対応できるよう話し合っています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>認知症の方々にとって、馴染みの関係を保つ事の大切さを重視し、職員の配置移動は行なっておりません。</p>	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症実践者研修への参加や、毎月、実施中の法人内合同学習会等において、職員一人ひとりが知識をみにつけられるよう取り組んでいます。</p>	<p>○</p> <p>外部での研修参加の件に関しては、定例会内等で報告し、情報の共有を図って行きたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>平成20年度「那須塩原市地域密着型サービス事業者連絡協議会」が発足し、職員も交替で参加し、他事業者との交流にて、同じ悩みを話し合ったり、サービスの質の向上にもつなげています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>当法人では、職員合同の年間行事（職員旅行、暑気払い、忘年会、納会）等顔を合わせる機会が多いことや、又、ユニット内でも、何でも気軽に意見を書き込めるノートを作り実施中。にて、ストレス軽減に努めています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、職員個々の努力や実績、又、仕事に対する姿勢等ふまえた勤務状況の把握に努めています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所の事前調査として、ご家族や担当ケアマネからの情報提供や、本人の様子観察等行なった上での入所となります。又、入所後も、職員それぞれの気づきを記録、確認しつつにて本人との係わりや把握に努めています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申し込みでの来所時や入所の際に、じっくりと時間をかけ、説明や質問等に答えることから始まる。又、面会の際にも、本人の様子を伝えつつ信頼関係に努めています。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話や来所にて相談を受けた場合は、本人の状況確認と同時に、家族への労をねぎらう言葉を添えながらお話するよう心掛けています。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に、事前調査にて本人や家族との話し合いの場を設けたり、本人同伴にて遊びに来て頂く等しています。又、入所直後は、こまめな面会をお願いしたり、本人に不安を与えぬよう十分な目配りにも心掛けています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の出来ること、出来ないこと、又、職員と一緒になら出来ることなど把握した中で、日々「有難うございます」や「お世話様でした」など感謝の言葉を伝えている。と共に、入居者より、昔の行事食や風習なども教えて頂いています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	先ず入所の際、家族への説明の中で、入所後も本人と家族との係わりがどんなに大切なものであるか、又、その上、施設と家族が本人の情報を共有しながら支えていく旨も伝え、係わらせて頂いています。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	こまめな面会など、強い絆で結ばれている家族には感謝の言葉を添え継続にむけての支援を。又、希薄となっている場合には、日頃の本人の言葉や気持ち等を代弁し、家族に分かって頂けるよう努めています。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会あり、玄関先で「もう、家族のことも分からない」と、聞きました。「会ってもしかたないですね?」と、いう時でも、職員が仲立ちとなり、面会頂いています。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの能力と入居者間関係をふまえた上で、職員が仲立ちとなり、支えあえるよう努めています。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療行為必須の状況にて、やむなく退所せざるを得ない場合には、同法人の特養への紹介や、希望の際には、申し込みの場にも同席し、家族が安心できるよう係わらせて頂いています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思を伝えられる入居者に関しては、その思いを大切にき取り、又、意思表示困難な入居者の場合でも、家族との話し合いや、本人のこれまでの思いを考慮しつつ心掛けています。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に、今後係わっていく上で、これまでの生活ぶりや、“人”となりを知る必要性を伝えたり、家族にできるだけ情報の提供頂いたり、又、面会の際にも会話をもつよう心掛けています。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の目配りや様子観察の中、一人ひとりの状況や、本人の発した”一言”などにも耳を傾けつつ、気づき場面の記録に心掛けています。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画内の、「家族の施設に望むこと」の確認は、面会時に確認するよう心掛けています。また、職員間でも、夜勤等にて、サービス担当者会議欠席の場合には、事前での依頼書の提出により、全員の意見をすり合わせた上で介護計画作成行なっています。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、3ヶ月毎の見直し、と共に、著しい状況の変化生じた場合にも、家族との話し合いの上、変更申請の提出や、新たな介護計画にもつなげています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や移り住む先のケア関係者の方々と何度も話し合い、情報交換を行いながら、又、移動後の状況によっては、その後の連絡も取り合いながらの係わりとさせて頂いています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとり、その人らしさを重んじる中、人生の先輩として、プライドを傷つけることのないよう職員間で注意しあい係わらせて頂いています。又、同様に、記録等への配慮にも心掛けています。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの能力を把握の上、入浴時の着替え等に関しても、最初から職員が手を出すのではなく、本人と一緒に、又は、後から足りない物を、本人に気づかれぬよう、そっと補充することもあります。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の出来ること（針仕事、おしぼり丸め、広告でのゴミ入れ折り、洗濯物たたみ等）や、又、一緒に唄を歌ったり、その他、自室で過ごす時間なども、本人の体調管理の上で大切な時間となっています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	常に、その人らしい服装に心掛ける。と共に、行事の場面や外出の際などにも気配りでの支援行なっています。又、ほぼ全員が、移動美容を利用中。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族より”小遣い”としてホームで預かり、一緒に買い物へ出掛けた際などには、見守りの中その場で渡し、本人自ら支払うなどの場面づくりも行なっています。</p>	
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>一人ひとりへの支援というよりは、ワゴン車を利用し、1時間半位をかけ、5～6人ずつの外出実施中。初詣、近くの羽田沼にて飛来の白鳥見学、又、当日天気が良ければ、那須方面へのドライブ等も決行し、往復の車中内会話も楽しめるよう心掛けています。</p>	
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族とのドライブや墓参り、又、自宅内での”ひ孫誕生の祝いごと”に参加するなど、家族と過ごす機会をつくり、支援しています。</p>	
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>以前、本人の希望にて、電話や手紙の宛名書きや郵送の支援行なっていましたが、現在は、ありません。だが、今後望む方がいれば、何時でも対応可の考えでいます。</p>	
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>家族のこまめな面会や、家族の意向伺った上で、知人の方々にも気軽に会いに来て頂くなど交流につなげています。</p>	
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束委員会を設置し、毎月の定例会の中で、身体拘束委員会より話しがあり、皆で確認、周知出来ています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会設置と共に、常に、職員間での目配りと声掛け等にて、鍵をかけないケアに取り組んでいます。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間での目配りや連携の中、入居者一人ひとりに対するプライバシーへの配慮は勿論のこと、昼夜を問わず、転倒の危険あること等もふまえ、安全への配慮に心掛け係わらせて頂いています。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日頃より、薬や刃物等の収納場である台所に関しては、少しでも離れる際には、必ず鍵をかけるよう徹底したり、又、ハサミの保管場所にも、必ず鍵をかけるように心掛けています。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	下肢筋力の低下見受けられた時点で、スリッパからシューズ(靴)への変更や、徘徊による対応では、姿が見えない、と思ったら、15分以内での確認を。さらに、服薬管理でも、朝、昼、夕、就寝前とそれぞれに色分けと、日付を書き、本人への手渡しや、直接、口に入れる等にて、毎日、飲み残しや誤薬のないよう心掛けています。	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	「急変時の対応」を、年間を通し、毎月実施中である法人内の学習会内に組み入れ、看護師指導の下、繰り返しの学習行なっている。又、急変時や事故発生時には、両ユニットが連携し合い対応行なっている。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	本年度も、消防署の指導の下、7月と11月の2回、入居者参加による避難訓練実施中。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>毎月家族の面会ある中、本人の様子伝えた上で情報の共有を図る。と同時に、リスクについても説明させて頂きながら、穏やかな声掛けや見守りの中、本人のペースで、ゆったりとした暮らしに近づけています。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>医療連携体制の下、日々の看護師による健康管理と職員の様子観察や気づきの積み重ねにて、早期発見、早期治療につなげている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>ユニット毎に、一人ひとりの服薬に関する説明書をまとめ、いつでも確認できる状況となっている。又、薬の内容でわからない時は、NSに確認したり、薬や量に変更あった際にも、個人ケースに記録し全員での把握に心掛けている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>排泄記録の中で、排便に関しては”赤”での記入とし、人目でわかるようになっている中、野菜や乳製品と共に、食後や、おやつ時の際も、多目の水分補給や、Dr やNSにも相談し便秘解消に努めています。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの能力に応じ、起床時や毎食後等、洗面所への誘導の中、一部介助や全介助での支援実施中。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>居宅療養管理指導の際に、Drより減量指示のあった入居者様には、少し、少なめでの提供を。又、一人ひとりの嚥下状況により、ペースト食や刻み食での提供行もなっています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	年間を通し、うがい、手洗いは勿論のこと、テーブル、椅子、床等の消毒も、ほぼ毎日実施中。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒対策としては年間を通し、毎食後や夜間帯において、布巾、まな板、包丁、食器洗い用スポンジ、三角コーナー等・・・必ずキッチンハイターや熱湯での消毒実施中。又、食材購入時にも、日付のチェック忘れずに、を心掛けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家族やボランティア、それに、同敷地内のデイサービスやショート利用の方々にも気兼ねなく出入り頂けるよう、玄関周りや遊歩道の整備に心掛けています。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロア内には、それとなく季節の草花を飾ったり、入居者の慣れ親しんでいる唄の歌詞をはりだし、一緒に口ずさんだりもしています。又、間接照明使用にて、まぶしすぎないような空間となっている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昼のスペースがあったり、ゆったりとしたベランダにはベンチがあり、日向ぼっこもできます。又、事務所内の来客用椅子がお気に入りの入居者様が多く、時には朝から5人位集まり、楽しいおしゃべりタイムとなっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

法人の協力病院となっている黒磯病院との「医療連携体制」により、日々の健康管理は勿論のこと、早期発見、早期治療、又、入院時の早期退院等にむけ取り組んでおりま